



いたばし No.1 実現プラン2018

アニュアルレポート（平成 28 年度）



板橋区

いたばし No.1 実現プラン 2018 の 平成 28 年度実績をお知らせします

(いたばし No.1 実現プラン 2018 の位置付けは P 6 に掲載しています)

■「実施計画」編

「実施計画」編では板橋区基本計画 2025 で定めた「3つの基本目標」と、それを実現する9つの基本政策に基づき事業を展開しています。また、2つの都市像「魅力創造発信都市」と「安心安全環境都市」をめざし、未来創造戦略において3つの柱を定め、「戦略事業」として重点的に事業を進めることとしています。

基本目標Ⅰ 未来をはぐくむあたたかいまち

計画事業の全てが「順調」と評価できる実績を上げています。

I-1 子育て安心

認可保育所8施設、小規模保育所7施設を民間事業者誘致により整備するなど、待機児童解消に向け取り組みました。

I-2 魅力ある学び支援

全区立中学校に電子黒板・実物投影機などの授業用 ICT 機器を整備するとともに、数学科デジタル教科書の導入を完了しました。

I-3 安心の福祉・介護

認知症カフェの開設や、板橋区版 A I P の構築に向けた「助け合い・支え合いの地域づくり会議」の設置に取り組みました。



■電子黒板を活用した授業風景

基本目標Ⅱ いきいきかがやく元気なまち

計画事業のほぼ全てが「順調」と評価できる実績を上げています。

Ⅱ-1 豊かな健康長寿社会

「いたばし健康づくりプロジェクト」を発展させ、栄養や健康に関するセミナーを実施するとともに、新たに測定拠点を設置し、区民の健康管理支援に取り組みました。

Ⅱ-2 心躍るスポーツ・文化

小豆沢体育館プール棟新築工事に着手し、地域で生涯スポーツを楽しめる場の提供と、スポーツによる健康づくり支援のため、小豆沢公園一体整備計画の検討を始めました。

Ⅱ-3 光輝く板橋ブランド・産業活力

ものづくり企業への立地継続支援を12社に行うなど、産業集積の維持・発展の促進に取り組みました。



■「いたばし健康づくりプロジェクト」測定拠点



■地域産業の振興を目的とした「いたばし産業見本市」

基本目標Ⅲ 安心・安全で快適な緑のまち

計画事業のほぼ全てが「順調」と評価できる実績を上げています。

Ⅲ－１ 緑と環境共生

住宅における新エネルギー・省エネルギー機器の導入を推進し、平成 28 年度からは集合住宅共用部の LED 化を新たに補助対象とするなど、CO₂年間削減量として 460 t を上回る効果が得られました。

Ⅲ－２ 万全な備えの安心・安全

福祉避難所を新たに 3 施設整備するなど、要配慮者を受け入れる態勢の確保に取り組み、発災時に実際に起こりうる場面を疑似体験する福祉避難所開設・運営訓練の平成 29 年度実施に向け準備を進めました。

Ⅲ－３ 快適で魅力あるまち

街灯の LED 化 10 か年計画の初年度として老朽化した街灯 1,715 基を更新し、安全性の向上と省エネルギー化を実現しました。

「戦略事業」の状況

戦略事業のほぼ全てが「順調」と評価できる実績を上げています。

戦略Ⅰ 若い世代の定住化戦略

若者支援機能を拡充した、「まなぼーと」(生涯学習センター)を開設し、若者の居場所としての i-youth など多くのの方々に利用いただいています。

戦略Ⅱ 健康長寿のまちづくり戦略

高島平ふれあい館内に、高齢者の雇用・就業機会の拡大を図る「WORK'S 高島平」の開設準備を進め、平成 29 年 4 月から業務を開始しました。

戦略Ⅲ 未来へつなぐまちづくり戦略

旧野口研究所、旧理化学研究所板橋分所及び加賀公園からなる史跡公園(仮称)の基本構想策定に取り組みました。

平成 28 年度の実績

平成 28 年度実施計画事業の事業数・予算額・決算額は以下のとおりです。

事業数	105
予算額 (A)	14,614 百万円
決算額 (B)	12,686 百万円
差額 (B-A)	1,928 百万円

「行財政経営計画」編

「行財政経営計画」編は、様々な事業を絶え間なく見直すことで新陳代謝を高め、経営資源を「選択と集中」により最適配分・有効活用するとともに、「人材育成・活用計画」編との連携による組織力の強化を担い、「実施計画」編（戦略事業を含む）を下支えしています。また、民間活力の活用を推し進め、高度多様化する区民ニーズに民間企業の優れたノウハウを活用し、区民サービスの質の向上を実現しています。

1 民間企業との人材交流

平成 29 年 3 月 30 日（株）タニタヘルスリンクと板橋区は「職員派遣に関する協定」を締結し、平成 29 年 4 月から平成 31 年 3 月までの 2 年間、板橋区の職員 1 名を（株）タニタヘルスリンクに派遣することとなりました。板橋区から民間企業への職員派遣は初めての試みとなります。

この職員派遣により、企画提案力・折衝力をはじめ、広報戦略や顧客要望を収集・分析し、サービス向上につなげる手法などのノウハウを獲得し、区の業務改善や事業展開に活かすことが期待されます。

今後は、民間企業からの人材受入により、柔軟な発想や臨機応変な対応などの感覚を区職場に取り入れることも検討しています。

2 指定管理者制度の改善

板橋区では、現在 85 施設に指定管理者制度を導入しています。

指定管理者の再選定に合わせ、文化会館、グリーンホール、企業活性化センター、徳丸ふれあい館、少年自然の家八ヶ岳荘の 5 施設について、仕様の見直しや利益等の適正化を図りました。

また、指定管理者制度導入施設の効果的な管理運営を実現するため、大規模な施設や複数の施設を管理している所管部署に、平成 29 年度から「施設経営担当」を配置することを決定しました。これにより区職員のオーナー意識・発注力を強化し、指定管理料の更なる適正化や、区民目線での施設経営につなげていきます。



■「職員派遣に関する協定」の締結の様子



■板橋区立文化会館（指定管理者導入施設）

3 民間活力の活用

委託化等による民間活力の積極的な活用により、効率的・効果的な事務事業の運営や区民サービスの向上を図りました。

- 国保年金課の窓口業務の一部を委託化しました。これにより、職員の力を保険料徴収に注ぎ、収入率の向上を図ります。
- 保育園給食調理・用務業務（1園）や学校給食調理業務（2校）を新たに委託しました。
- 給与・福利事務における定型業務の委託化を平成29年度から開始すべく、準備を進めました。

平成28年度の実績

平成28年度の実績は以下のとおりです。

【財政効果額】

計画値（A）	238 百万円
実績値（B）	313 百万円
比較（B-A）	75 百万円

【人員削減数】

計画値（A）	73 人
実績値（B）	69 人
比較（B-A）	▲4 人

「人材育成・活用計画」編

「人材育成・活用計画」編は、区政の持続的な発展を、経営資源の最適配分・有効活用の観点から担う「行財政経営計画」編と連携し、職員の能力を最大限発揮するための育成と活用をめざした計画です。

1 MOTENASHI プロジェクト

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」）により国内外から東京に注目が集まっていることは、職員が大切にしてきた「もてなしの心」をさらに成熟させる絶好の機会となります。そこで、これまでの「もてなしの心」に“板橋の魅力を創る”“板橋を発信する”“板橋に迎える”という観点を加えた、「MOTENASHI」の実現をめざすプロジェクトを展開しています。

- 『「もてなしの心」を推進するハンドブック』
「もてなし」に関する職員向けアンケートや、各部代表の職員で構成したプロジェクトチームによるワークショップなどを実施し、今後職員がめざすべき「もてなしの心」に必要な考え方をまとめたハンドブックの作成に着手しました。



■職員と区民が共に学習する「大学連携講座」

- 「大学連携講座」
訪日外国人を板橋区に迎えるためには、「もてなしの心」を職員だけでなく、区内に広く波及していく必要があります。そこで、区内大学である大東文化大学と連携し、板橋区の魅力を訪日外国人に伝えるため、多文化の理解や英会話を、職員と区民が共に学習する講座を開催しました。この講座の修了者は、東京2020大会に係る各種イベント等へのサポート活動に参加する予定です。



■若手職員が開催した勉強会の様子

● 「クリエイティブ発想力向上研修」

効果的に板橋区の交流人口を増加させる施策を展開するには、固定観念や前例踏襲にとらわれない発想力が求められます。

そこで、社会環境の変化に対応できる新事業の立案や課題解決、業務改善を促進する柔軟な発想力を養う研修を実施しました。この研修では、実際に事業立案プロセスを体験するとともに、職員提案制度を通じて庁内に具体的な事業提案をしています。

2 若手管理職支援プロジェクト

人口減少・超高齢化等の影響によりますます厳しくなる社会環境に対応し、持続的な区政の発展を支えるには高い能力を有する管理職の育成が必要となります。

そこで若手管理職を対象に、能力を総合的に向上させる人材育成プログラムとして、能力分析・マネジメント研修等を、年間を通して実施しており、マネジメント行動の改善や、組織横断的な視野の形成に成果が表れています。

3 各職場での人材育成活動

職員の育成には各職場での職務を通じた指導・育成（OJT）が重要です。このOJTの状況を調査した結果、全庁的かつ活発にOJTを実施している様子が明らかになりました。

その一例として建築指導課では、課の抱える問題を現場レベルで解決するため若手職員による「担当者会」を設けています。

平成29年2月には、この担当者会を中心に、区初の試みであった「空き家の行政代執行」をテーマとした自主的な勉強会を開催し、勤務時間外にも関わらず、課長や係長を含め多くの職員が参加しました。

この活動に対し、所属長は、「課の意思疎通向上や、新しい考え方を発信してくれるなど、課の雰囲気づくりに良い影響を与えている」と手応えを感じています。

また、若手職員も、係を越えた組織横断的な活動を手探りで行う中で、多くのことを学び、その経験により業務に対する主体性が高まったと感じています。

平成 28 年度の実績

平成 28 年度は以下のとおり計画の約 98%を実施できており、順調に進行しています。

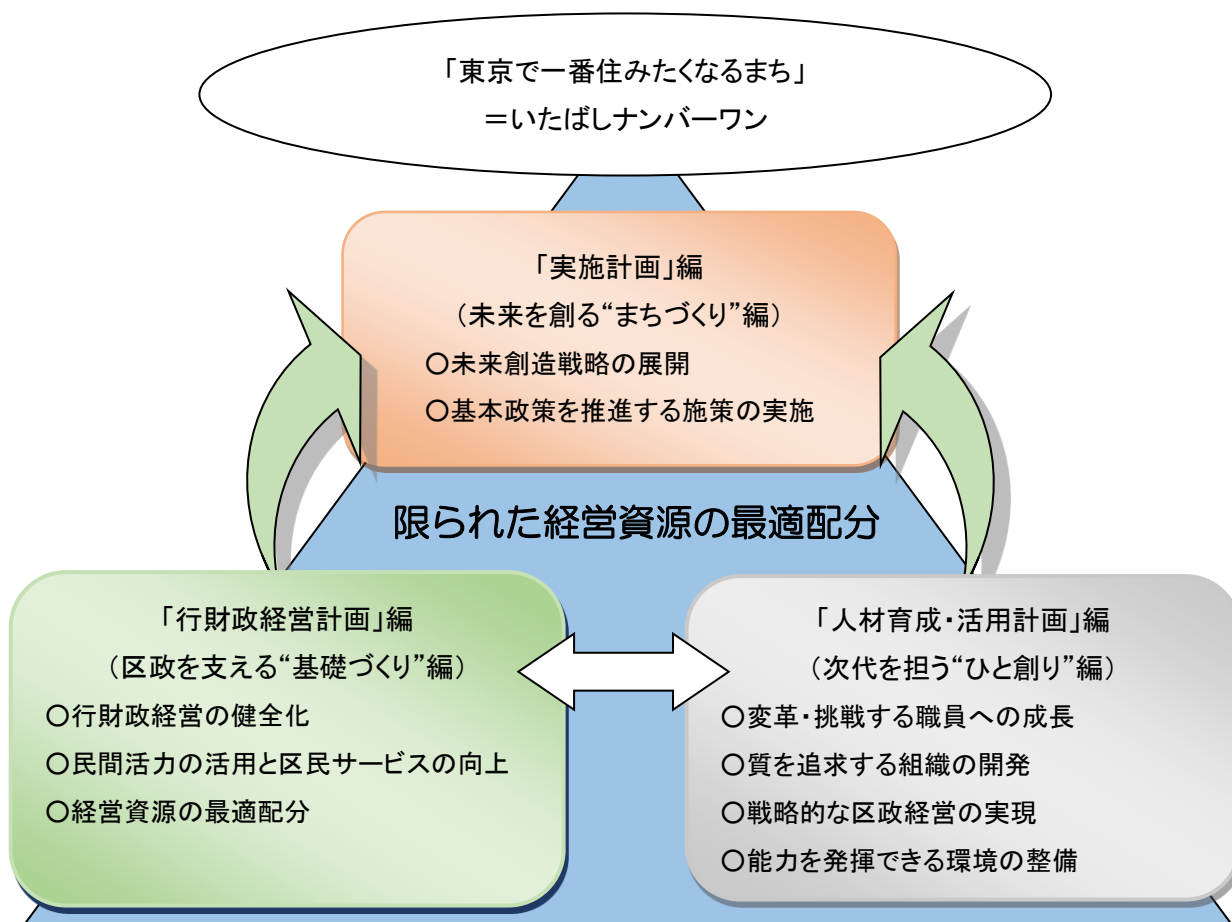
体系大分類	計画事業数	実施事業数
1 変革・挑戦する職員への成長	39	37
2 質を追求する組織の開発	20	20
3 戦略的な区政経営の実現	19	19
4 能力を最大限発揮できる環境の整備	11	11
合計	89	87

いたばし No.1 実現プラン 2018 について

板橋区では、平成 28 年度から概ね 10 年後の区の将来像を「未来をはぐくむ緑と文化のかがやくまち“板橋”」とする新たな板橋区基本構想を平成 27 年 10 月に策定しました。また、基本構想の実現に向け、平成 28 年度から 10 年間の区政の方向性や施策体系を、平成 28 年 1 月に策定した「板橋区基本計画 2025」において明らかにしました。

そして、基本計画 2025 を推進するため、平成 28 年度から 3 か年の具体的な事業をアクションプログラムとしてまとめたのが「いたばし No. 1 実現プラン 2018」です。いたばし No. 1 実現プラン 2018 は、計画的に実施すべき事業を定める「実施計画」編、民間活力の活用と区民サービスの向上を図り、経営資源の最適配分をめざす「行財政経営計画」編、変革・挑戦する職員への成長と区民サービスの質を追求する人と組織づくりを推進する「人材育成・活用計画」編の 3 つの柱が互いに効果を高め合うことで、総合的・効果的な将来像の実現をめざしています。

平成 28 年度は、基本構想をはじめ、板橋区基本計画 2025、いたばし No. 1 実現プラン 2018 の幕開けとなった 1 年でした。皆様に「東京で一番住みたくなるまち」と評価いただけるよう、引き続き気を緩めることなく、全庁が一丸となって区政の発展に邁進してまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。





板橋区 〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目 66 番 1 号 URL <http://www.city.itabashi.tokyo.jp/>